

共立女子学園所蔵卒業生寄贈作品について ― 共立女子職業学校制作裁縫雛形を中心に ―

長谷川紗織、高橋由子、田中淑江

1. はじめに

共立女子大学の前身である共立女子職業学校は明治 19（1886）年に創立した。その背景には明治 5 年の学制発布に伴い、男女平等に学問を学ぶことができる環境となったことに由来する。当時の女学校といえ教員養成のために明治 10（1877）年に創立した東京女子師範学校や、特別階級の子女のために同じく明治 10（1877）年に創立した跡見女学校や明治 18（1885）年に女子学習院などが存在する。その中で、女性の自立を目指す職業学校として創立した共立女子職業学校は、技芸教育を中心として幅広い知識と技術を学べる女子の学校としては稀有な存在であり、社会からは開校以来高い評価を得ていた¹⁾。

本学には博物館所蔵資料と図書課資料として保管される、卒業生やそのご親族から寄贈された授業で制作された作品や使用されていた教科書、ノート、制作道具類、成績表、お免状、写真などが多数所蔵している。しかしながらこれらの資料は、当時の学校の様子を知る上で大変貴重な資料であるのにもかかわらず未調査の状態であった。これら 2 か所に分散され、保管されているそれぞれの資料を、筆者たちは 2017 年 12 月、2018 年 2 月、4 月に調査の機会を得た²⁾。

本研究ではこの 3 回の調査結果から寄贈品の内容を把握し、また特にその中でも、生徒が裁縫の授業で制作した裁縫雛形に注目する。裁縫雛形とは、衣服や生活用具のミニチュアで、当時の女学生が裁縫の技術を数多く習得するために、時間と費用の節約のために制作したものである。これらの作品からは様々な情報を読み取ることができる。例えば作品の名称、制作者名、所属、教員の検印、縫始年月日、縫終年月日として墨書や捺印が見られる。これらの貴重な情報から作品の制作年代の把握や、制作日数、また当時どのような種類の作品が縫われ、どのようなレベルの教育が行われていたのか、裁縫を担当していた教員の名前や制作者の名前など当時の教員構成や学生に関する内容を検討することができる。

なお、共立女子職業学校に関する研究は女性教育史³⁾、職業学校関係者に焦点を当てたもの⁴⁾、学園史関連が存在する⁵⁾。しかし教育内容、技芸に関する先行研究は中川氏による刺繍教育が主であり⁶⁾、裁縫教育、裁縫雛形に注目した研究はほぼないのが現状である。

そこで本研究では裁縫雛形を取り上げ、その全貌を詳細に調査し、基礎データを構築することを目的とした。このデータは今後の女子裁縫教育研究、女子教育研究、本学学園史の発展のため有効に活用できるものとする。

2. 寄贈作品全体について

本学が所蔵する寄贈品の詳細を把握するために分類を行った。分類は資料の特徴を検討し、以下 17 区分とした分類名称とその詳細を述べる。

1. 裁縫雛形: 布を用いて実際の寸法よりも小さな寸法で制作された、衣類や生活用品に関する作品
2. 基礎縫い作品: 運針やまつり縫いなど基本的な縫い方やボタン付けを練習した作品及び衿や袖、腰板など部分的な形状練習のために制作された作品
3. 編物作品: 毛糸やレース糸を用いて編まれた作品
4. 刺繍作品: 刺繍の技法で図案が表現されている作品
5. 染物作品: 染色を目的として制作された作品
6. 写生作品: 植物や動物などを模写した作品
7. 組糸作品: 糸が組まれた組紐の作品
8. 袋物作品・お細工物: 布を用いて制作された身の回りの小物や飾り物の作品
9. 制作道具類: 作品の制作に使用された道具
10. 書籍類: 書籍や雑誌、雑誌の切り抜きなど
11. ノート・制作メモ: 個人が授業内容を自筆したものや、制作に関する覚書がなされている冊子や用紙
12. 成績: 成績簿や通学簿など成績に関する記載のあるもの
13. 証書: 卒業証書、修了証書、免許状、辞令など

14. 写真：当時の写真、卒業生の現在の様子が写された写真や卒業アルバム
15. 学園に関する資料：校章や記念絵葉書など
16. 寄贈者に関する資料：寄贈作品の制作者や卒業生の生い立ちや経歴に関する覚書や自伝、履歴書など
17. その他：実物の寸法で作られた作品

以上の結果検討から、共立女子学園では2018年4月の調査時点において卒業生寄贈品を1312点所蔵していることが明らかになった。これらの分類ごとの作品数は図1に示す通りであり、裁縫雛形が最も多く、次いで基礎縫い、制作道具類となった。本稿では上記区分のうち裁縫雛形について詳細を述べる。

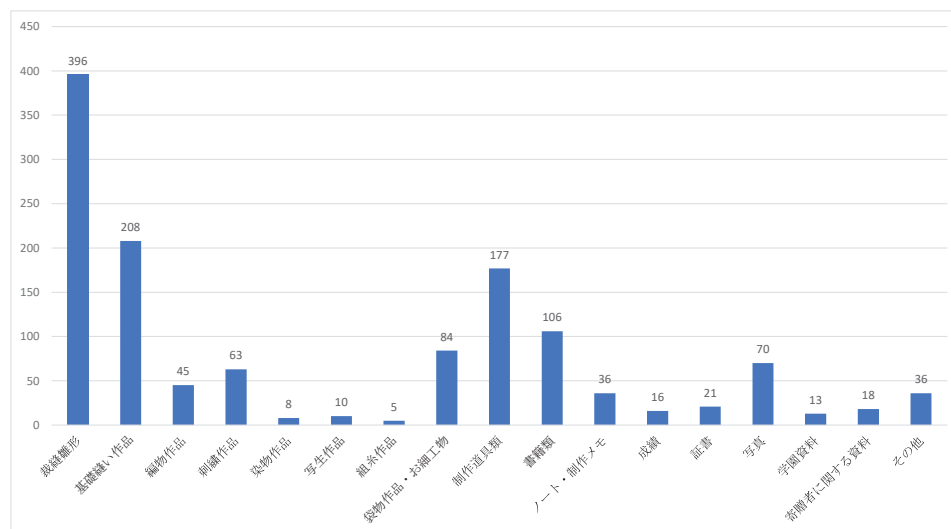


図1 寄贈品内訳

3. 裁縫雛形の分類

裁縫雛形は、裁縫に関して数多くの裁ち方や縫い方を効率よく習得するための教授法により制作された作品である。実物の寸法ではなく縮小した寸法で制作され、雛形尺と呼ばれる鯨尺を縮小した物差しが用いられた。雛形尺を用いることで縮尺計算の手間を省き、和服や洋服に限らず時代衣装や日用品など様々な形状の制作が行われた。それらの多種多様な作品群の全体像を把握するため、作品の特徴による分類を行った。

作品の分類を行うにあたり、東京家政大学所蔵の裁縫雛形についての詳細がまとめられている『重要有形民俗文化財渡辺学園裁縫雛形コレクション上巻・下巻』⁷⁾を参考資料として用いた。東京家政大学所蔵の裁縫雛形作品群は、平成12年に重要有形民俗文化財の指定を受けており、近代における女子教育の内容の一端を示す貴重な資料であると言える。この作品群は、東京家政大学の前身である和洋裁縫伝習所や東京裁縫女学校、東京女子専門学校において制作されて作品である。この作品群には、学校に保管されていた作品だけではなく、卒業生から寄贈された作品も多く含まれている。

本研究における分類には、『重要有形民俗文化財渡辺学園裁縫雛形コレクション上巻・下巻』に掲載されている分類の内、大分類と中分類を用いた。この分類によると大分類は、1.和装雛形、2.洋装雛形、3.有職雛形、4.生活用品雛形に分けられており、中分類は、1.被り物、2.上衣、3.下衣、4.外衣、5.下着、6.手甲・脚絆、7.その他に分けられている。4.日用品雛形については、東京家政大学における大分類1.和装雛形、2.洋装雛形、3.有職雛形に用いられている中分類が適用されておらず、生活用とのみ記されている。そのため本研究においてもそれに従うこととした。

本学所蔵作品の分類結果を見てみると、大分類では、1.和裁雛形180点(45%)、2.洋裁雛形173点(44%)、4.生活用品雛形35点(9%)、3.有職雛形8点(2%)の順に作品数が多いことが分かった(図2)。次にこの大分類を中分類に分けそれぞれの作品数を見てみると、和装雛形では作品数の多い順に3.下衣76点(42%)、2.上衣62点(35%)、6.手甲・脚絆22点(12%)、4.外衣11点(6%)、5.下着6点(3%)、1.被り物1点(1%)、7.その他2点(1%)であった(図3)。2.洋装雛形では、5.下着97点(56%)、

2. 上衣 37 点 (22%)、3. 下衣 15 点 (9%)、4. 外衣 9 点 (5%)、1. 被り物 5 点 (3%)、7. その他 9 点 (5%)、6. 手甲・脚絆 0 点 (0%) であった (図 4)。3. 有職雛形については、8 点の作品中 7 点が上衣であり、残り 1 点は下衣に分類された。4. 日用品雛形は寝具 14 点 (41%)、油単 12 点 (34%)、蚊帳 6 点 (17%)、暖簾 2 点 (6%)、幟 1 点 (3%) という結果となった (図 5)。

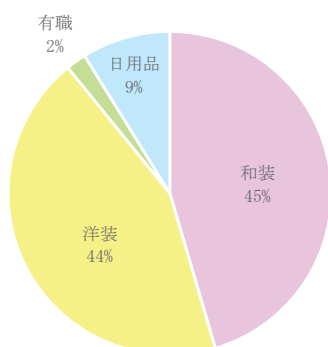


図 2 裁縫雛形大分類

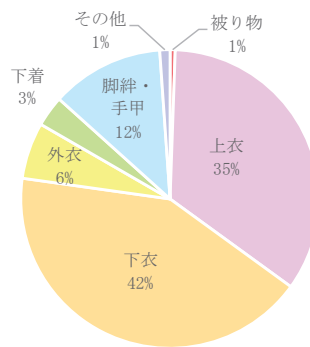


図 3 和装雛形中分類

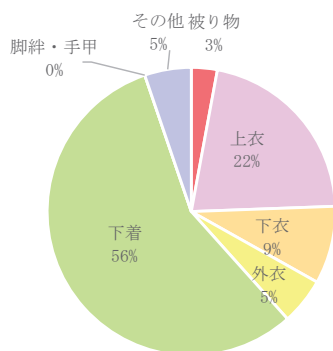


図 4 洋装雛形中分類

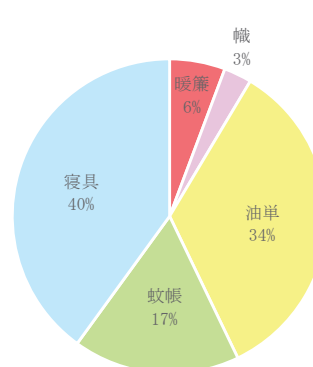


図 5 日用品雛形中分類

4. 名称及び制作年代

4-1. 作品記載の情報と名称

裁縫雛形作品について個々に詳細な調査を行うと、前述のとおり作品に関する情報が記載されていることが確認された。その内容は作品名称、制作者名、所属、検印、教員印、作品素材、縫始年月日、縫終年月日、添削内容などである。これらは作品に直接墨書きまたは朱書き、押印されている場合と、内容が記載された用紙が作品に縫いつけられている場合があった (図 6)。このように作品には、多くの情報が記載されていることが確認できたが、全ての作品に上記の情報が記されている訳ではない。一部の情報

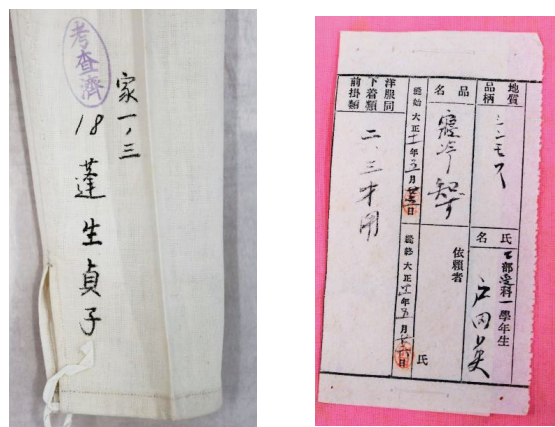


図 6 左: 氏名、所属、考査済み印 右: 作品札、教員印

しか記載されていない作品や何も書かれていない作品の方が主流であった。これらの名称が不明な作品に名称を付けるため、作品に付随する情報を用いながら、個々の作品名称の検討を行う。

4-2. 名称に関する資料

作品名称の検討を行うため先ず『増訂裁縫新教科書上下巻』⁸⁾、『最新裁縫教科書第一巻、第二巻、第三巻』⁹⁾『女子手芸講義録一卷～十一巻』¹⁰⁾を資料として用い、使用されている作品名称の確認を行った。また寄贈品の中に含まれている成績に関する資料に、制作作品に関する成績などが記載をされている細目と呼ばれる一覧表が挟み込まれているため確認を行った。成績に関わる資料は、通学簿（昭和5年）1冊、通学簿（明治38年2冊、昭和4年）3冊、通信簿（昭和6年、昭和16年、昭和17年、昭和18年）4冊、手芸裁縫成績簿（年代不明）1冊、裁縫成績原簿（裁縫新教科書下巻付録未使用のもの・年代不明）、裁縫細目並成績本科三學年成績表（年代不明）である（図7）。これらの中でも裁縫雛形に関する名称が記載されている細目は「裁縫細目並成績」、「裁縫成績原簿」である。また明治38年の通学簿に細目は挟まれておらず、「成績若クハ注意」という部分に制作作品に関する名称がみられたため、この資料も名称の確認に用いた。しかしこれら成績に関する資料を用いても、すべての名称を確認することはできな



図7 成績関係資料
左:通学簿 右:裁縫細目並成績

かった。

4-3. 作品名称の検討方法

次に作品の形状や特徴が同じ作品ごとに分類を行い、作品情報の整理を行った。これにより形状や特徴が同一の作品であっても、異なる名称が使用されていることが確認された。またその名称について前述の資料と照合を行うと、資料記載の名称と一致しない作品が確認された。そのため本研究においては、教科書等の資料に基づき作品の特徴ごとに、統一の名称を用いることとした。以上の事項を踏まえ、名称付けの基準6項目を以下に示す。

- (1) 教科書等の図版または文章中の特徴と一致する作品は、教科書に記載された名称を使用する。更に作品に個別の名称が記載されている場合には、【 】を用いて作品記載の名称を併記する。
- (2) 教科書等の図版と一致しないもしくは、掲載されていない作品は、寄贈品に含まれる成績簿等の成績に関する資料中の名称を使用する。
- (3) 教科書や成績に関する資料に名称が記載されていないが、作品に名称が記載されている作品は、その名称を使用する。記載の際には作品に記載されていた名称であることを示すため、【 】を用いて表記する。
- (4) 名称の記載のない作品で (3) と同じ形・特徴を持つ作品には、(3) の名称を使用する。
- (5) 上記 (1) から (4) に当てはまらない作品は、『渡辺学園裁縫雛形コレクション下巻』に掲載されている画像と比較を行い、同一の作品にその名称を使用する。
- (6) (5) に当てはまらない作品については、その作品の特徴を明確に示す表現を使用する。

4-4. 制作年代の検討

本調査の対象となった裁縫雛形の中で、制作年月日等が正確に記載されている作品はごくわずかである。しかし前述の通り、作品から様々な情報を読み取ることが可能であるため、その情報の中に含まれる、制作者氏名・所属と寄贈の際に寄せられた制作者に関する情報をもとに年代の検討を行った。制作者名が判明している作品については、本学同窓会である桜友会発行の会員名簿¹¹⁾から卒業年度と所属の確認を行い、卒業年度を制作年代とした。作品に制作者を表す情報が記載されていない場合は、寄贈の際寄贈者の方より得た情報をもとに、所属科の設置年代及び生年月日から卒業年代の推定を行い制作年代とした。分類区分は共立女子職業学校及び共立女子専門学校が開校していた1. 明治、2. 大正、3. 昭和とする。なお制作者の情報がない作品に関しては現段階では4. 不明に分類をした。結果を表1に示す。本学園所蔵の作品は2. 大正 3. 昭和、4. 不明、1. 明治の順に資料数が多い結果となった。

以上の検討より得られた結果を表2及び図8に示す。

表1 時代別制作作品数

大分類 時代区分	和装	洋装	有職	日用品	合計
明治	11	17	1	2	31
大正	64	97	4	16	181
昭和	53	26	1	9	90
不明	52	33	2	8	94
合計	180	173	8	35	396

表2 共立女子学園所蔵裁縫雛形の名称及び制作時代

通し番号	名称番号	大分類	中分類	作品名称	明治	大正	昭和	不明	合計
1	1-1	1.和装雛形	1.被り物	【大人宗十郎頭巾】	—	—	—	1	1
2	1-2		2.上衣	本裁女単衣【単衣】	—	1	—	—	1
3	1-3			本裁女単衣【ひとえ】	—	1	—	—	1
4	1-4			【小裁単衣本重】	—	—	—	1	1
5	1-5			本裁単衣重	1	9	5	—	15
6	1-6			本裁単衣重【本裁女単衣本重】	—	1	—	—	1
7	1-7			本裁単衣重【本裁女物単衣本重】	—	1	—	—	1
8	1-8			本裁単衣重（右身頃）	—	—	1	—	1
9	1-9			単衣半重【本裁女単半重】	—	1	—	—	1
12	1-10			単衣半重【本裁半重】	—	—	—	1	1
10	1-11			本裁女衿(左半身)	—	1	—	—	1
11	1-12			本比翼	—	5	7	1	13
13	1-13			本比翼・附比翼【本裁本比翼・附比翼】	—	1	—	1	2
14	1-14			本比翼(左前身頃)【本比翼右半身】	—	—	—	1	1
15	1-15			小袖重下着	—	—	1	—	1
16	1-16			本裁男単羽織	—	—	1	—	1
17	1-17			本裁男衿羽織（左半身）	—	2	—	1	3
18	1-18			【古織部流十徳】	—	—	—	1	1
19	1-19			【利休流十徳】	—	—	—	1	1
20	1-20			【有楽流十徳】	—	—	—	1	1
21	1-21			【本裁女鉤襦単衣羽織】	—	—	—	1	1
22	1-22			負半纏	—	—	1	—	1
23	1-23			【布衣信】	—	—	—	1	1
24	1-24			【改良服】	—	—	1	1	2
25	1-25			【丸胴着】	—	—	—	2	2
26	1-26			袷腹掛	1	4	—	1	6
27	1-27			袷腹掛【袷腹掛】	—	—	—	1	1
28	1-28		3.下衣	【五ツ子馬乗袴】	—	—	—	1	1
29	1-29			小裁女袴（後一つ襷）【小裁大紋腰女袴】	—	1	—	—	1
30	1-30			本裁男単袴	1	5	6	3	15
31	1-31			本裁男単袴【男大人襠無袴】	—	1	—	—	1
32	1-32			本裁男単袴【襠なし袴】	—	—	—	1	1
33	1-33			本裁男単袴【四布遣ひ】	—	—	—	1	1
34	1-34			本裁男単袴【十布遣馬乗袴】	—	—	—	1	1
35	1-35			本裁男袷袴	1	7	8	2	18
36	1-36			【■■■■袴】	—	—	—	1	1

通し番号	名称番号	大分類	中分類	作品名称	明治	大正	昭和	不明	合計
37	1-37	1.和装雛形	3.下衣	【裁附袴】	—	—	—	1	1
38	1-38			本裁女袴	—	2	6	3	11
39	1-39			【女有襠袴】	—	—	—	1	1
40	1-40			【本裁大紋腰女袴】	—	—	—	1	1
41	1-41			【渡辺式改良女袴】	—	1	—	—	1
42	1-42			【渡辺式改良袴】	—	—	—	1	1
43	1-43			【七ツ襷改良服】	—	—	1	1	2
44	1-44			本裁男袴股引	2	9	5	2	18
45	1-45		4.外衣	【改良被布】	—	—	—	1	1
46	1-46			【本裁男袴道行】	—	—	—	1	1
47	1-47			袴コート	2	1	—	—	3
48	1-48			【本裁袴女コート】	—	—	—	1	1
49	1-49			本裁被布	—	—	2	—	2
50	1-50			本裁女合羽	1	1	1	—	3
51	1-51		5.下着	寝冷え知らず（二～三歳用）	—	1	—	—	1
52	1-52			寝冷え知らず（二～三歳用）	—	1	—	—	1
53	1-53			【寝冷知ず（二、三歳用）】	—	—	—	1	1
54	1-54			寝冷え知らず（二～三歳用）【紐附寝冷不知】	—	—	—	1	1
55	1-55			【男猿袴】	—	—	—	1	1
56	1-56			【女猿袴】	—	—	—	1	1
57	1-57	6.手甲・脚絆	肌襦袢	肌襦袢	—	1	—	—	1
58	1-58			大津脚絆	—	1	—	—	1
59	1-59			大津脚絆【大津脚絆】	—	—	—	1	1
60	1-60			大津脚絆（左脚）	1	2	—	—	3
61	1-61			大津脚絆（右脚）	—	—	3	—	3
62	1-62			山附脚絆	1	2	—	—	3
63	1-63			山附脚絆（左脚）	—	—	3	—	3
64	1-64			山附脚絆（右脚）	—	—	1	—	1
65	1-65			手甲	—	1	—	5	6
66	1-66			手刺	—	—	—	1	1
67	2-1	2.洋装雛形	7.その他	割烹前掛(料理前掛)	—	—	—	2	2
68	2-2		1.被り物	帽子	1	—	—	—	1
69	2-3			【大黒帽子】	—	—	—	1	1
70	2-4			【二三才夏帽子】	—	—	—	1	1
71	2-5			【小供夏帽子】	—	—	—	1	1
72	2-6			【看護服帽子】	—	1	—	1	2
73	2-7		2.上衣	チョツキ	1	—	—	—	1
74	2-8			【手術衣】	—	—	—	2	2
75	2-9			【看護婦服】	—	—	—	1	1
76	2-10			胸繼形女児洋服（一～二歳用）	1	—	3	—	4
77	2-11			胸繼形女児洋服（一～二歳用）【女子服】	—	1	—	—	1
78	2-12			女児服	—	1	—	—	1
79	2-13			ロンパース形女児洋服（五～六歳用）	—	1	—	—	1
80	2-14			男児服【■■■■男■■■】	—	—	—	1	1
81	2-15			襷附男児形服（四五歳）	—	2	—	—	2
82	2-16			襷附男児形服（四五歳）【女子服箱ヒタ】	—	1	—	—	1
83	2-17			【四五歳男児筒単服】	—	—	—	1	1
84	2-18			二重胸形男児洋服（五～六歳用）	—	1	—	—	1
85	2-19			【男子服詰衿】	—	1	—	—	1
86	2-20			脊廣形男児洋服	—	1	—	—	1
87	2-21			水兵服	—	4	—	—	4
88	2-22			水兵服【水兵服上】	—	1	—	—	1
89	2-23			水兵服【五六才男児水兵服】	—	—	—	1	1
90	2-24			水兵服【五六才女児水兵服筒単服】	—	—	—	1	1
91	2-25			小裁運動シャツ	1	3	1	—	5
92	2-26			運動服シャツ	—	—	3	—	3
93	2-27			【水兵形運動シャツ】	—	—	—	1	1
94	2-28			男海着【男海水浴衣】	—	—	—	1	1
95	2-29			女子海着【女海水浴衣】	—	—	—	1	1
96	2-30		3.下衣	水兵服ズボン	—	3	—	—	3
97	2-31			水兵服ズボン【水兵服下】	—	1	—	—	1
98	2-32			水兵服ズボン【五六才男児水兵服手ズボン】	—	—	—	1	1
99	2-33			運動服ズボン	1	3	4	—	8
100	2-34			運動服ズボン【運動ツボン】	—	—	—	1	1
				【男子服詰衿下】	—	1	—	—	1

通し番号	名称番号	大分類	中分類	作品名称	明治	大正	昭和	不明	合計
101	2-35	2.洋装雛形	4.外衣	外套	—	2	—	—	2
102	2-36			長外套	—	1	—	—	1
103	2-37			廻し外套	—	3	—	—	3
104	2-38			廻し外套【マント】	—	1	—	—	1
105	2-39			廻し外套【五六才男児長ケープ】	—	—	—	1	1
106	2-40			廻し外套【五六才女児短ケープ】	—	—	—	1	1
107	2-41		5.下着	折襟シャツ【折襟】	1	1	—	—	2
108	2-42			立衿シャツ	1	6	3	—	10
109	2-43			立衿シャツ【立ち衿シャツ】	—	—	1	—	1
110	2-44			立衿シャツ【肩当付普通シャツ】	—	1	—	—	1
111	2-45			立衿シャツ【肩襷付附本裁普通シャツ】	—	—	—	1	1
112	2-46			ホワイトシャツ	—	5	—	—	5
113	2-47			【ホワイトシャツ】	—	—	—	1	1
114	2-48			【ワイシャツ】	—	1	—	—	1
115	2-49			太鼓胴シャツ	—	3	1	—	4
116	2-50			【本裁婦人シャツ】	—	—	—	1	1
117	2-51			シャツ	—	2	—	—	2
118	2-52			男寝衣（大人用）【大人男西洋寝間着】	—	—	—	1	1
119	2-53			小裁シャツ【小裁普通シャツ】	—	1	—	2	3
120	2-54			女児襦袢（シミズ）	1	12	1	—	14
121	2-55			女児襦袢（シミズ）【五六才女児水兵形下着】	—	—	—	1	1
122	2-56			女児襦袢（シミズ）【シミズ】	—	2	—	—	2
123	2-57			女児襦袢（シミズ）【五六歳シミーズ】	—	—	—	1	1
124	2-58			本裁胴廻し附ズボン下	—	4	2	—	6
125	2-59			本裁胴廻し附ズボン下【胴廻附ズボン下】	—	—	1	—	1
126	2-60			本裁胴廻し附ズボン下【本裁股引仕立てズボン下】	—	1	—	—	1
127	2-61			本裁紐附ズボン下	2	6	3	—	11
128	2-62			本裁紐附ズボン下【本裁紐付ズボン下】	—	1	—	—	1
129	2-63			本裁紐附ズボン下【脇縫い目有本裁ちズボン下】	—	—	—	1	1
130	2-64			本裁紐附ズボン下【脇縫目ナシ本裁紐付ズボン下】	—	—	—	1	1
131	2-65			本裁紐附ズボン下【紐付ズボン】	—	—	2	—	2
132	2-66			本裁紐附ズボン下【紐付ズボン下】	—	1	—	—	1
133	2-67			【腰廻り附ズボン下】	—	3	1	1	5
134	2-68			小裁ズボン下	—	4	—	—	4
135	2-69			小裁ズボン下【小裁紐付ズボン下】	—	1	—	1	2
136	2-70			女児股引（パンタロン）	1	6	—	—	7
137	2-71			女児股引（パンタロン）【ズロース】	—	1	—	—	1
138	2-72			【五六歳児ベティコート】	—	—	—	1	1
139	2-73			【五六歳児用トロワース】	—	—	—	1	1
140	2-74		7.その他	前掛	6	—	—	—	6
141	2-75			肩釦掛羽根無し前掛（二三歳）【子供前掛け】	—	1	—	—	1
142	2-76			綾襦袢前掛（七八歳）【五六歳西洋前掛け】	—	—	—	1	1
143	2-77			小児前掛（三—四歳用）	—	1	—	—	1
144	3-1	3.有職雛形	2.上衣	【被衣】	1	—	1	1	3
145	3-2			【袷（ウチギ）】	—	2	—	—	2
146	3-4			【中—文字肩衣】	—	1	—	1	2
147	3-5	4.生活用品	3.下衣	紅袴（緋の袴）【緋袴】	—	1	—	—	1
148	4-1		1.暖簾	【切暖簾】	1	—	—	1	2
149	4-2		2.幟	【幟】	—	—	—	1	1
150	4-3		3.油単	筆筒油単	1	1	2	—	4
151	4-4			筆筒油単【筆筒油単】	—	—	—	1	1
152	4-5			長持油単	—	1	1	—	2
153	4-6			長持油単【長持油単】	—	—	—	1	1
154	4-7			【挟箱油単】	—	—	—	1	1
155	4-8			釣臺油筆【釣蓋油筆】	—	—	—	1	1
156	4-9			琴油単	—	2	—	—	2
157	4-10		4.蚊帳	蚊帳	—	4	1	—	5
158	4-11			蚊帳【五六蚊帳】	—	—	—	1	1
159	4-12		5.寝具	敷蒲團	—	1	—	—	1
160	4-13			夜着	—	6	5	—	11
161	4-14			夜着【大夜着】	—	1	—	1	2

				
1-1 【大人宗十郎頭巾】	1-2 本裁女單衣【單衣】	1-4 【小裁單衣本重】	1-5 【本裁單衣重】	1-9 單衣半重 【本裁女單半重】
				
1-12 本比翼	1-15 小袖重下着	1-16本裁男單羽織	1-18 【古織部流十徳】	1-21 【本裁女鉤襠單衣羽織】
				
1-22 負半織	1-23 【布衣信】	1-24 【改良服】	1-25 【丸胴着】	1-26 【袷腹掛】
				
1-28 【五ツ子馬乗袴】	1-29 小裁女袴（後一つ襷） 【小裁大紋腰女袴】	1-30本裁男單袴	1-35 本裁男袷袴	1-37 【裁附袴】
				
1-38 【本裁女袴】	1-40 【本裁大紋腰女袴】	1-41 【渡辺式改良女袴】	1-43 【七ツ襷改良服】	1-44 本裁男袷股引

図8 裁縫雛形作品一例

1-45 【改良被布】	1-46 【本裁男衿道行】	1-48 【本裁衿女コート】	1-49 本裁被布	1-50 本裁女合羽
1-51 寝冷え知らず (二～三歳用)	1-54 【男猿袴】	1-55 【女猿袴】	1-57 大津脚絆	1-61 山附脚絆
1-64 手甲	1-65 手刺	1-66 割烹前掛(料理前掛)	2-4 【小供夏帽子】	2-5 【看護服帽子】
2-6 チョツキ	2-8 【看護婦服】	2-9 洋服 (一～二歳用)	2-12 ロンパース形女児 洋服 (五～六歳用)	2-14 褌附男児形服 (四五 歳)
2-18 【男子服詰衿】	2-20 水兵服	2-25 運動服シャツ	2-29 水兵服ズボン	2-32 運動服ズボン

図8 裁縫雛形作品一例(続き)

				
2-34 【男子服詰衿下】	2-36 長外套	2-37 廻し外套	2-41 折襟シャツ【折襟】	2-43 立衿シャツ【立ち衿シャツ】
				
2-46 ホワイトシャツ	2-49 太鼓胴シャツ	2-50 【本裁婦人シャツ】	2-52 男寝衣（大人用） 【大人男西洋寝間着】	2-53 小裁シャツ 【小裁普通シャツ】
				
2-54 女兒襦袢（シミズ）	2-58 本裁胴廻し附ズボン下	2-61 本裁紐附ズボン下	2-67 【腰廻り附ズボン下】	2-68 小裁ズボン下
				
2-70 女兒股引（パンタロン）	2-75 肩釦掛羽根無し前掛（二三歳）【子供前掛け】	3-1 【被衣】	3-2 【袷（ウチギ）】	3-3 【中一文字肩衣】
				
3-4 紅袴（緋の袴）【緋袴】	4-3 箆笥油單	4-5 長持油單	4-10 蚊帳	4-13 夜着

図8 裁縫雛形作品一例（続き）

5. 共立女子職業学校所蔵裁縫雛形の特徴

共立女子職業学校の開校当初より制作されていた裁縫雛形について、作品の総数、分類、名称付けを行った。現時点での調査内容から、本学所蔵の裁縫雛形の位置づけを東京家政大学所蔵裁縫雛形と比較し検討を行う¹²⁾。以下東京家政大を家政大と称す。

まず、裁縫雛形の総数は、本学は396点、家政大2290点である。本学の雛形の総数は家政大の約2割弱である。数量が全く異なるが、割合で比較を試みる。

大分類による作品の割合の比較では本学と家政大の上位は同じで1.和装雛形、2.洋装雛形の順である。有職雛形に関して本学は全体の2%であるが、家政大は17%とかなりの数を有することが示された。生活用品は両校とも9%であった(表3)。次に中分類による和装雛形の比較では両校とも1.下衣、2.上衣、3.手甲・脚絆の順であった(表4)。作品の内訳の上位を記すと本学の下衣では男袴、女袴、股引きであり、上衣は本裁女単衣、本比翼、男羽織の順であった。家政大の下衣では本学と同様であり、上衣は本裁比翼、単半重、単本重の順であった。次に洋装雛形の比較は両校とも上位は1.下着、2.上衣であり、3は本学では下衣であり、家政大は被り物であった(表5)。作品の内訳は本学の着ではズボン下、シャツ、シミズであり、上衣は男児洋服、運動服、水兵服、下衣は運動ズボン、水兵服ズボンであった。家政大は下着ではズボン下、シャツ、シミーズであり、上衣は運動シャツ、ベスト、簡単服で、下衣はパンツ、スリーゴワードスカート、水兵ズボンであった。有職雛形は本学の作品数は8点で数量が少なく比較が難しいため、制作作品を全て示す。被衣3点、袷衣2点、中一文字肩衣2点、緋袴1点である。家政大は388点で、多い順にその内訳を示すと単17点、丸形肩衣・被衣・緋ノ本長袴各15点であった(表6)。生活用品では本学は1.寝具、2.油単、3.蚊帳の順で多く制作され、家政大では、1.油単、2.寝具、3.暖簾であった(表7)。

両校において制作された雛形の分類の順位に大差は見られなかった。しかし、有職雛形と和洋装雛形における大人物と子ども物の制作数量に関しては、両校で差が見られたため以下に述べる。まず、有職雛形に関しては数量に大きな違いが見られた。家政大の前身である、東京裁縫女学校では、高等科において古代服を研究する目的で雛形が制作されていた。ここでは過去の服についての素養を身に付けることが目的とされ、更に日常ではない宮中儀礼や特別な職業において伝統的に受け継がれる衣服までも制作できるプロフェッショナルを育てることも目指したようである¹³⁾。

次に和装雛形と洋装雛形の大人物と子ども物の制作数を比べると、両校とも和装雛形において、大人物は子ども物の作品より多く制作されたことが分かる。一方、洋装雛形では本学の大人物は和装の約半分以下の制作数で、子ども物より少ない制作数であることが示された。また家政大において、洋装雛形では大人物は子ども物の雛形の制作数より多いが、和装雛形との比較で考えると、和装雛形の大人物より制作数は減り、子ども物は和装雛形より制作数が増えた(表8)。

以上の事から有職雛形に関しては、共立女子職業学校及び共立女子専門学校においてどのような科で取り上げられたのか、また教科書における記述なども今後調べることが必要である。また洋装雛形では両校とも洋装における子ども物数量は和装雛形の子どもの物より多いことが共通点である。これは当時の普段着の洋装は子ども物から普及した背景が影響していると考え¹⁴⁾。しかし、家政大の洋装雛形における大人物と子ども物を単純に比較すると、大人物が多い

表3 大分類の比較

	共立女子学園		東京家政大学	
	点数	%	点数	%
和装雛形	180	45	919	40
洋装雛形	173	44	772	34
有職雛形	8	2	388	17
生活用品	35	9	211	9
総数	396	100	2290	100

表4 和装雛形中分類の比較

	共立女子学園		東京家政大学	
	点数	%	点数	%
被り物	1	1	32	3
上衣	62	35	347	38
下衣	76	42	355	39
外衣	11	6	58	6
下着	6	3	29	3
手甲・脚絆	22	12	88	10
その他	2	1	10	1
合計	180	100	919	100

表5 洋装雛形中分類の比較

	共立女子学園		東京家政大学	
	点数	%	点数	%
被り物	5	3	70	9
上衣	36	21	226	29
下衣	15	9	54	7
外衣	10	6	41	5
下着	97	56	367	48
手甲・脚絆	0	0	0	0
その他	9	5	14	2
合計	173	100	772	100

表6 有職雛形の比較

	共立女子学園		東京家政大学	
	点数	%	点数	%
被り物	0	0	0	0
上衣	7	87	243	63
下衣	1	13	130	33
その他	0	0	15	4
合計	8	100	388	100

表7 日用品雛形の比較

	共立女子学園		東京家政大学	
	点数	%	点数	%
暖簾	2	6	34	16
幟	1	3	23	11
油単	12	34	56	27
蚊帳	6	17	33	16
寝具	14	40	39	18
幕	0	0	26	12
合計	35	100	211	100

数値を示した。これに関しては、同校での雛形制作方針は、大人物、子ども物とも隔てなく両方を学ぶことで幅広い技術を習得するとともに、新しい時代の変化に対応する衣服制作を目指していたのではないかと考えられる。

6. まとめ

共立女子学園所蔵の卒業生寄贈作品の調査によ

り、寄贈品の全体の概要を明らかにした。また今回注目した共立女子職業学校開校の当初より制作されていた裁縫雛形に関しては、作品の分類、名称付けを行い今後の研究のための基礎データを作成することが出来た。

133年という歴史の中で、卒業生が生涯にわたり大切に保管してきた裁縫雛形は多くの貴重な情報を含んだ資料である。今後これらの実物資料が持つ情報や、付随する情報を余すところなく用い、併せて卒業生の回顧録や教科書などの資料も使用し、丁寧に調査を継続する。このような調査をすることで、共立女子職業学校及び共立女子専門学校における裁縫教育や、当時職業学校として世間に名を轟かせた理由、本稿において制作年度を特定することができなかった作品の制作年代などを明らかにしていく。

註)

- 1) 共立女子学園百年史編集委員会『共立女子学園百年史』共立女子学園 1986、pp.125-128。
- 2) その後の調査により未調査資料が存在していることが判明した。その資料については別稿にて報告を行う予定である。
- 3) 内海崎貴子「鳩山春子における女子教育思想の研究 - その思想形成過程を中心として -」『上智教育学研究』、1983、pp.18-37。
- 4) 中川浩一「共立女子職業学校裁縫科主任中川とうある女教師の数奇な生涯」『茨城大学教育学部紀要人文・社会科学・芸術』、第35号、1986、pp.1-10。
徳田誠志「100年前の共立女子職業学校の生徒について：佐藤蓮と残された刺繍作品から」『共立女子大学家政学部紀要』、第60号、pp.31-40。
- 5) 岩田朝一「共立女子職業学校の成立」『共立女子短期大学家政科紀要』、第26号、1983、pp.148-137。
岩田朝一・古谷博「共立女子職業学校の成立過程（二）- 創設に参加した人々 -」『共立女子短期大学家政科紀要』、27号、1984、pp.160-140。
岩田朝一・今井貞貴・古谷博「共立女子職業学校の成立過程（三）- 明治期の校舎と教職員 -」『共立女子短期大学家政科紀要』、第28号、1985、pp.162-144。
岩田朝一・今井貞貴・古谷博「資料 共立女子職業学校の成立過程（四）- 創設期の資料と明治期の写真・図版 -」『共立女子短期大学家政科紀要』、第29号、1986、pp.130-114。
- 6) 中川麻子・田中淑江「明治時代の女子教育における刺繍について」『筑波学院大学紀要』、第8集、2013、pp.51-57。
中川麻子「明治～昭和時代にかけての女子刺繍教育における孔雀刺繍の制作背景：共立女子職業学校を中心に」『服飾文化学会』Vol.17、2016、pp.1-12。
- 7) 東京家政大学博物館『重要有形民俗文化財渡辺学園裁縫雛形コレクション上・下巻』、東京家政大学博物館、2001。
- 8) 共立女子職業学校校友会裁縫研究部『増訂裁縫新教科書上・下巻』、大日本圖書株式会社、1918。
- 9) 共立女子専門学校・共立女子職業学校『最新裁縫教科書第一巻・第二巻・第三巻』、大日本圖書株式会社、1993。
- 10) 木村俊秀『女子手藝講義録一・四巻』、大倉書店、1910。村俊秀『女子手藝講義録五・十二巻』、大倉書店、1911。
- 11) 桜友会『会員名簿明治20年～昭和60年』桜友会、1986年。
- 12) ここで用いた共立女子大学と東京家政大学所蔵の裁縫雛形に関する比較表は、6) の下巻 p45-53 の表の数値を用いて割合を出して一覧とした。
- 13) 三友晶子「歴史服の裁縫雛形に関する一考察」『東京家政大学博物館紀要』、第22集、2017、pp.165-177。
- 14) 子供の洋服は明治30年代ごろから上流階級の家庭で嗜れ着としてよくみられるようになった。大正に入ると夏服を中心に一般家庭の子どもにも洋服が普及し始めた。大正末から昭和初頭にかけて、子どもの洋服は学校服を中心に普及、定着した。一方大正末期の女性はまだ和服中心の生活であった。

参考文献 遠藤武・石山彰『写真に見る日本洋装史』、文化出版局、1980。

長野泉「子供服産業の発展と子ども感-家庭洋裁から既製服へ-」『服飾文化学会誌』、9(1)、2008、pp.43-54。

表8 和装洋装雛形における大人物と子ども物の比較

	東京家政大学				共立女子学園			
	和装		洋装		和装		洋装	
	大人	子供	大人	子供	大人	子供	大人	子供
上衣	61	1	4	32	268	79	117	109
下衣	74	2	0	15	283	72	34	20
外衣	11	0	0	10	58	0	6	35
合計	143	3	4	57	609	151	157	164
下着	3	3	63	33	14	15	296	71
合計	623	166	453	235	146	6	67	90

Textiles of ordinary people

- Characteristics and beauty seen through the Museum Collection -

NAGASAKI Iwao

Abstract:

In the textiles of commoners, robustness, economic efficiency, regionality, practicality are regarded as major characteristics or necessary conditions, and matching with these requirements such as material, processing method and tailoring were chosen.

However, when reviewing the textiles of common people since the existing objects of modern period, things that show much more interesting decorative properties than the various high-class textiles used by people of the upper classes are often found. And there are not a few things that we have a strong impression and aesthetic impression can be seen.

Pieces housed in the Kyoritsu Women's Educational Institution, with a focus on *saihouhinagata* produced at the Kyoritsu Women's Vocational School

HASEGAWA Saori, TAKAHASHI Yuko, TANAKA Yoshie

Abstract:

This study focused on *saihouhinagata*, miniatures of clothes and tools for daily living, among pieces donated by the alumnae of the Kyoritsu Women's Vocational School. To efficiently acquire sewing technique, female students from the Meiji through the Taisho and Showa periods produced *saihouhinagata* in order to save time and money. The study aimed to generally investigate, as well as precisely classify and name these previously unexamined works, in order to create basic data to enhance the future sewing education of the school's female students and the status of the school. A total of 396 *saihouhinagata* (31 from the Meiji period, 181 from the Taisho period, 90 from the Showa period, and 94 undated) were examined, and classified based on their characteristics. Most were unnamed, and we therefore named all the unnamed pieces based on the records of pieces donated by the alumnae or from other girls' schools. In addition to the aims above, the study revealed basic information on *saihouhinagata*, which will serve as valuable data in a variety of studies.